African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学
現代アフリカ地域研究センター
２０２１（令和３）年度活動報告

目次

1. 概要
2. 活動実績
2.1. 研究活動
2.1.1. 学術ジャーナル刊行
2.2. 教育活動
2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献
2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「イデアス」
2.2.3. その他
2.3. シンポジウム・セミナー
2.3.1. 創設 5 周年記念国際シンポジウム
2.3.2. ASC セミナー
2.3.3. 若手アフリカ研究者向けセミナー
2.3.4. その他、協力イベント
2.4. 人的交流
2.4.1. 研究者招へい
2.4.2. 留学生招致活動
2.5. 社会貢献、ネットワーキング
2.6. ウェブサイト、SNS による情報発信
2.6.1. センター公式ウェブサイト
2.6.2. SNS（フェイスブック、ツイッター）
2.6.3. メーリングリスト
2.7. 来年度に向けた活動

2.7.1. SAJU フォーラム
2.7.2. JSAS 年次総会
3. センターの人員構成
4. 活動記録
4.1. ASC セミナー一覧
4.2. 主催・協力イベント一覧
4.3. 主要来訪者一覧
5. センター教員・研究員の業績
5.1. 研究活動
5.1.1. 著作（単著・共著・編著）
5.1.2. 論文
5.1.3. エッセイ、その他
5.1.4. 学会・シンポジウム
5.1.5. 一般向け講演
5.1.6. 企画・運営・事務局等
5.2. 教育活動
5.2.1. 本学内における今年度担当授業
5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動
5.2.3. 修士・博士論文指導
5.3.対外活動、社会貢献
5.3.1. 外部機関からの委託業務
5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応
5.4. 外部資金の獲得
5.4.1. 代表者
5.4.2. 分担金

別添

創設 5 周年記念国際シンポジウム、ASC セミナー、KU-TUFS セミナー、共催・協力イベント、みたか地球市民講座「アフリカの人々の日常と私たち」のチラシ一覧、国際シンポのプログラム

1. 概要

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のために、活動に大きな制約を受けた 1 年だった。ただし、そのなかでも工夫して活動を行い、一定の成果を上げることができた。

招へい時期の遅れ等の問題はあったものの、昨年度とは異なり 4 人のアフリカ人研究者を招へいできたことはセンターの活動にとって追い風となった。コーネリッセン教授（ステレンボッシュ大学)、アンピア教授（リーズ大学)、フォンゾッシ准教授（ドゥアラ大学）はいずれも、授業やセミナー報告など、本学の活動にきわめて協力的で、多くの教員、学生と触れ合った。

彼らの協力を得て、創設 5 周年記念国際シンポジウムを実施できたことも重要な成果であった。11 月 3 日、6 日の 2 日間にわたりハイブリッド方式で実施し、東京で参加したアンピア教授、フォンゾッシ准教授に加えて、南アフリカ、カメルーン、ウガンダ、英国からオンラインで登壇者を招いた。また、このシンポジウムでコメンテーターを務めたオニャンゴ准教授（マケレレ大学）を 11 月から 12 月にかけて短期招へいした。同シンポジウムの成果を基にジャーナル『ASC-TUFS Working Papers Volume 2 (2022)』を刊行するなど、このシンポジウムは今年度の活動の核になった。

COVID-19 のために、昨年来予定していたガーナ大学との共同セミナーが実施できなかったのは残念だった。2020 年 2 月に開催したルワンダでのセミナーの盛り上がりを維持するためにも共同セミナーを開始したかったが、状況が改善せず、2021 年度中の開催は断念した。しかし、ルワンダ・セミナーの成果の一部を Springer 社から英文書籍（『African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities』）として刊行し、そのブックローンチセミナーをオンラインで開催できた。今年度の ASC セミナーは、この回を含めて 7 回開催した。

今年度、新たに力を入れた点として 3 点挙げておきたい。第 1 に、アフリカ人留学生を中心とした若手アフリカ研究者との研究交流の場作りである。在日アフリカ人留学生のなかには博士課程の学生も多いが、アフリカ研究の枠組みで相互に交流する機会は少ない。5 周年記念シンポジウムの際、非常に短い時間ではあったが、若手アフリカ研究者が自分の研究内容を報告するネットワーキング・セッションを設けた。2022 年 3 月にも、少し時間に余裕を持たせた形でのセミナーを企画している。在日アフリカ人若手研究者のネットワーク支援は本センターの目的とも合致することから、可能な範囲で続けていきたい。

第 2 に、2020 年度から始まった大学の世界展開力強化事業「アフリカにおける SDGs に向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム（以下、「大学の世界展開力強化事業（アフリカ)」)」（共同採択校・京都大学）への協力と協働である。同事業は本学が MOU を有するアフリカの諸大学と学生交流を活発化することに加えて、プラットフォーム構築事業として、アフリカで活動する日本の大学や実務機関、そして本学の関係大学に限らず広くアフリカの諸大学を含めたネットワークを形成・強化することを目的としている。いずれも本センターの目的に合致する事業であることから、機会を捉えて協力と協働を進める。

第 3 に、今年度から就任した日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）議長校の業務である。JAAN は、アフリカで活動する日本の大学間ネットワークで、現在 27 の機関（26 大学、1 団体）から構成されている。前述の世界展開力事業もこの JAAN のネットワークを利用しているこ

ともあり、京都大学とも連絡を取りながら JAAN の活動を進めたいと考えている。

2. 活動実績

2.1. 研究活動

現代アフリカ地域研究センター・センター教員の 2021 年度活動実績は、下記 5.に示すとおりである。5.4.1.に示す通り、多数の研究代表プロジェクトを遂行しており、活発な研究活動を行っている。

2.1.1. 学術ジャーナル刊行

センターの刊行物として、『ASC-TUFS Working Papers Vol.2 (2022)』を発行した。これは、2020 年度より定期刊行物となったワーキングペーパーで、今年度は第 2 号となる。編集委員会は下記のとおりである。第 2 号では、創設 5 周年記念シンポジウムでの発表を基に 14 本の論文が投稿された。

編集委員長	武内進一
編 集 委 員	出町一恵、村橋勲、村津蘭、中山裕美、大石高典、坂井真紀子
事　務　局	緑川奈津子

また ASC-TUFS Working Paper のより広い認知を図るため、日本の学術ジャーナルを発信するオンラインプラットフォームである J-STAGE に掲載する手続きを進め、第 1 号からの掲載が実現した。

2.2. 教育活動

2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献

a. 特任研究員

国際社会学部において以下の授業を行った。

科目：アフリカ地域研究 2/B

題目：アフリカの宗教とエスニシティ

秋学期 15 コマ・前半は村橋がエスニシティを、後半は村津が宗教を担当した。

原則、対面で授業を実施した。12 月 2 日はエリア・オロウォ・オニャンゴ氏をゲストに招いた（下記 2.4.1 参照）。

b. 特別研究員

◆キニュア・レイバン・キティンジ（Kinyua Laban Kithinji）

世界教養プログラムの地域言語 A/専攻言語の英語科目を担当。題目は下記のとおりである。

春学期：Contemporary Issues in African Society and Politics

秋学期：African Society, Development, and Politics

c. 招へい外国人研究員

招へい者は学部と大学院にてそれぞれ 1 科目ずつ授業を受け持った。担当科目は下記のとおりである。

①スカーレット・コーネリッセン Scarlett Cornelissen （春学期）

●国際社会学部

科目名：国際協力論 1/A

題目名：Japan and its international cooperation with Africa

●総合国際学研究科

科目名：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17

題目名：Asia-Africa Relations

＊2 科目ともに、コーネリッセン氏が来日した 5 月まではオンライン、6 月以降は対面で授業を実施した。

②クウェク・アンピア Kweku Ampiah （秋学期）

●国際社会学部

科目名：国際協力論 2/B

題目名：The Discourse of Japan's Relations with Africa

●総合国際学研究科

科目名：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18

題目名：The Modernization of Japan and its impact on Japan’s International Relations

＊大学院の授業は来日できない留学生のためにオンラインで授業を実施した。

③エヴァリスト・フォンゾッシ・フェドゥン Evariste Fongnzossie Fedoung （秋学期）

●国際社会学部

科目名：アフリカ地域研究 2/B

題目名：Forest, Human Health and Development in Africa

●総合国際学研究科

科目名：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18

題目名：State of the art and future perspectives of ethnobotanical science in Cameroon

＊2 科目とも原則、対面で授業を実施したが、総合国際学研究科の授業は元交換留学生テンボがルワンダより聴講生として参加したためハイブリッドで行った。

2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「イデアス」

日本貿易振興機構アジア経済研究所（IDE-JETRO）では、アジア・アフリカ諸国から研修員を招き、国際経済や開発に関する研修事業を提供している。この事業が「イデアス」（IDEAS：IDE Advanced School）であり、1990 年以来の歴史がある。2018 年度から、本センターが本学とアジア経済研究所の間を取り持つ形で、本学学生をイデアスに参加させ、大学院総合国際学研究科で単位認定する試みを開始した。秋学期に合わせてセットされたイデアス事業に、今年度は大学院生

2 名、学部生 1 名が参加した。

2.2.3. 「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」への協力

2020 年度から始まった「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」は、今年度本格的に活動を開始した。センターとしても、次のようなイベントに関して協力を行った。

a. ルワンダ・オンライン・スタディツアー

8 月 23 日～23 日、9 月 1 日～2 日の日程で実施されたルワンダ・オンライン・スタディツアーでは、現地からの生中継、現地で働く本学学生との座談会、講義、プロテスタント人文・社会科学大学(PIASS)の学生との交流などの企画がハイブリッド形式で実施された。この企画の中で、8 月 24 日、武内が「ルワンダのジェノサイドとそれから」と題して講義を行った。

b. アフリカゼミ

8 月 3 日、8 月 31 日、10 月 25 日、10 月 27 日の日程で、アフリカをテーマとした卒業論文・修士論文・博士論文のブラッシュアップを目的として、アフリカゼミが開催された。7 名が発表したが、招へい研究者のスカーレット・コーネリッセン教授がメインのコメンテーターを務めたほか、センター教員も参加しコメントを述べた。

c. Coil 型授業（ルワンダ）

2021 年度冬学期に、武内が授業題目「アフリカの紛争と平和構築」を開講し、PIASS（ルワンダ）の佐々木和之先生と共同で授業を行った。オンラインで Zoom を利用し、ブレイクアウトルームを用いて 2 つの大学の学生を混ぜたグループを作り、議論をさせた。いわゆる Coil 型の授業であり、双方の学生から好評を得た。

2.3. シンポジウム・セミナー

2.3.1. 創設 5 周年記念国際シンポジウム

現代アフリカ地域研究センターが 2017 年 4 月の創設から 5 周年を迎えるにあたり、11 月 3 日（水・祝）と 6 日（土）の 2 日間にわたって ASC-TUFS 創設 5 周年記念国際シンポジウムを開催した。シンポジウムは、若手アフリカ研究者による研究内容紹介と、政治・国際協力（TICAD 8 に向けて日本-アフリカ関係を考える）、移動（サハラ以南アフリカにおける越境移動）、経済・開発（市場経済の中のアフリカ）、環境・生態（現代アフリカにおける生態学と社会・政治）、宗教（現代アフリカ社会の宗教多元主義）をテーマにした 5 つのセッションに分けて発表を行った。発表は、すべて対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で実施した。各セッションの講演者、コメンテーター、内容については別添として創設 5 周年記念シンポジウムのチラシとプログラムを添付する。

2.3.2. ASC セミナー

ASC セミナーは、公式ウェブサイトや SNS に加えて当センターの開設したメーリングリスト（2.6.3. 参照）を用いて広報している。2021 年度（令和 3 年度）は、下記 4.1.に示すとおり、7 回のセミナ

ーを開催し、通算で 65 回の開催に至った。新型コロナウイルス感染症対策のため、第 64 回については対面とオンラインを併用したハイブリッド、それ以外は Zoom を用いたオンラインで開催した。今年度に開講した 7 回のうち、6 回は国際セミナーであり、主に日本とアフリカから参加した。別添として ASC セミナーのチラシを添付する。

2.3.3. 若手アフリカ研究者向けセミナー

日本には近年、アフリカからかなりの数の留学生が来日し、大学院で学んでいる。しかし、アフリカを専門とする大学教員が少ないこともあって、ともすればこうしたアフリカ人留学生は孤立しがちである。英語だけで修了できる修士・博士課程が増え、アフリカ人留学生が増えたのは喜ぶべきことだが、日本人学生との接点を持てずに学生生活を送る危険もある。こうした点を考慮し、アフリカ人留学生を中心とした研究発表の場を提供した。

まず、5 周年記念シンポジウムの際に、ネットワーキングを主目的として第 1 回を開催。2021 年 11 月 3 日 12 時〜14 時に、17 名が報告した。続いて、2022 年 3 月 21 日にひとりひとりの報告時間を長く取って、Africa-Japan Graduate Students and Early Career Researchers Mentorship を開催した。ここでの報告者数は 12 名であった。

2.3.4. その他、協力イベント

a. BLM セミナー

昨年度の企画から引き続き、ブラック・ライヴズ・マターをテーマとした連続セミナーに協力した。2021 年度は本編として 4 回、スピンオフ企画として 2 回のセミナーが開催された。なお、このセミナーに基づいて、書籍（武内進一・中山智香子編『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶこと—アメリカからグローバル世界へ』東京外国語大学出版会、2022 年）が刊行された。

b. KU-TUFS セミナー

当センターと京都大学アフリカ地域研究資料センターとの共催で開催される KU-TUFS セミナーにおいては、招へい者 2 名が 12 月と 1 月に京都大学を訪問し、2 回、セミナーを実施した。詳細は以下のとおりになる。

◆第 13 回 KU-TUFS セミナー

12 月 17 日（金）、クウェク･アンピア博士「The Political Economy of the TICAD Process: Bureaucratic Interests and the Immobility of the Japanese Private Sector」、ハイブリッド開催

◆第 14 回 KU-TUFS セミナー

1 月 13 日（木）、エヴァリスト･フォンゾッシ･フェドゥン博士「Agrobiodiversity and the challenge of food security in forest dwelling communities in Southeastern Cameroon」、ハイブリッド開催

c. アフリカンウィークス

国際社会学部アフリカ地域専攻の学生が中心になって企画･運営する「アフリカンウィークス 2021

～共有～」（開催期間：2021 年 11 月 29 日～12 月 10 日）に協力した。この企画は、写真展、ビブリオバトル（図書紹介）、インタビュー企画、トーク企画、文化紹介企画（アフリカファッションの紹介やアフリカおみくじ等）から構成された。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、研究講義棟 1 F での展示とオンライン双方を活用して実施した。また、アフリカンウィークス関連企画として、11 月 28 日に府中市国際交流サロン DIVE の協力で、映画『かぞくの証明』（2019 年）の映画紹介＆トークを行い、村橋特任研究員が岩崎祐監督を交えてエチオピアの文化、政治に関する上映後トークを行った。

d. その他

センター創設以来、協力している、小学生向けワークショップ「オンラインで世界を旅しよう! 2021 地球たんけんたい⑩」（開催期間：2021 年 10 月 31 日～2022 年 3 月 6 日）に今年も協力。本ワークショップでは、大石高典准教授が「トリップ 2　アフリカの森の精霊に会いに行こう！」の回で講師を担当し、カメルーンのパカ・ピグミーについてレクチャーをした。

また、1 月 30 日（日）に開催された上智大学アジア研究所アフリカ研究セミナー「混迷する北東アフリカ―エチオピア・スーダン・南スーダン」（アフリカ学会関東支部第 15 回例会を兼ねる）を共催した。本セミナーでは、村橋特任研究員が南スーダンの情勢について発表とパネルディスカッションを行った。なお、司会は、松波康男（明治学院大学准教授・前現代アフリカ地域研究センター特任研究員）、発表者は眞城百華（上智大学准教授）、モハメド・アブディン（東洋大学客員研究員）と村橋特任研究員であった。

2.4. 人的交流

2.4.1. 研究者招へい

2021 年度は昨年度招へい予定だったアンピア博士、フォンゾッシ博士を含め計 4 名のアフリカ出身研究者を招へいすることができた。

a. スカーレット･コーネリッセン（Scarlett Cornelissen）

所属・役職：ステレンボッシュ大学（南アフリカ）政治学科・教授
招へい期間：2021 年 5 月 12 日～9 月 1 日
講演活動：
7 月 20 日　　第 60 回 ASC セミナー
“The Fallist Movements' Antecedents and Legacies: Political Change and Transitional Justice in Post-Apartheid South Africa”

b. クウェク･アンピア（Kweku Ampiah）

所属・役職：リーズ大学（英国）芸術･人文･文化学部東アジア研究科・准教授
招へい期間：2021 年 8 月 10 日～2022 年 1 月 31 日
講演活動：
11 月 15 日　　第 62 回 ASC セミナー

“The Dynamics of Economic Events between Japan and Africa from the 1930s to the 1960s”

12 月 17 日　第 13 回 KU-TUFS セミナーにて報告

“The Political Economy of the TICAD Process: Bureaucratic Interests and the Immobility of the Japanese Private Sector”

1 月 21 日　国際大学の学生にオンライン講義

“The Economic Content of the Asia-Africa Conference of 1955: Japan’s Participation in the Bandung Agenda”

c. エヴァリスト･フォンゾッシ･フェドゥン（Evariste Fongnzossie Fedoung）

所属・役職：ドゥアラ大学森林工学科・准教授

招へい期間：2021 年 9 月 24 日～2022 年 1 月 31 日

講演活動：

12 月 19 日　研究会「コミュニケーションの場としての熱帯林――森林への人類学、生態学、認知科学からのアプローチの架橋に向けたブレインストーミング」への参加

12 月 22 日　第 65 回 ASC セミナーにて報告

“Biodiversity-based Value Chains and the Nagoya Protocol on Access and Benefit-sharing (ABS) in Cameroon”

1 月 13 日　第 14 回 KU-TUFS セミナーにて報告

“Agrobiodiversity and the challenge of food security in forest dwelling communitis in Southeastern Cameroon”

d. エリア･オロウォ･オニャンゴ（Eria Olowo Onyango）

所属：役職：マケレレ大学社会学･人類学学科・講師

招へい期間：2021 年 11 月 15 日～12 月 15 日

講演活動：

12 月 2 日　アフリカ地域研究 2/A「アフリカの宗教とエスニシティ」においてゲスト・レクチャー

“The LRA war and the ethnicity of the Acholi in Uganda”

12 月 10 日　第 64 回 ASC セミナーにて報告

“East African Borders: From Colonial Partition to Contemporary Disputes”

2.4.2. 留学生招致活動

2020 年度のクラウドファンディング事業をもとに PIASS から招へいしたアンリ･ファブリス･ンダイゼィエ、ジャスタス･テンボの 2 名は、2021 年 7 月まで本学に滞在した。コロナ禍のために留学生招致活動は停滞を余儀なくされ、PIASS から 2022 年 3 月に 2 名を受け入れる予定であったが、日本の水際政策のため、来日は 4 月にずれ込む見込みである。

「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」の枠組みで留学生招致を進めており、本センターとしても可能な限り協力している。コーディネーター（神代ちひろ特任助教）の精力的な活動もあっ

て、今後協定校との間での活発な学生交流が期待できる。

2.5. 社会貢献、ネットワーキング

アフリカの研究・教育に関わるネットワークの構築・強化は、本センターにとって重要な役割である。この認識に基づいて、ネットワーキングの機会があればなるべく協力・貢献するよう心がけてきた。今年度新たに行った活動として、日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）議長校としての業務がある。本学は JAAN に発足時（2016 年）以来参加しているが、今年度より 3 年の任期で議長校を務めることとなった（副議長校は北海道大学と京都大学）。

また、センター関係者が行った特筆すべき活動として、村橋特任研究員による「アフリカ・マルティプル」プロジェクトへの参加を挙げることができる。これは新たなアフリカ研究の可能性を探ろうとする研究プログラムで、ポスドク研究者を含め、世界中のアフリカ研究者が研究員としてこのプロジェクトに参加している。村橋特任研究員は、2022 年 1 月 13 日から 3 月 12 日まで 2021-22 年研究員（international fellow）としてバイロイト大学に滞在し、ドイツをはじめ世界各国のアフリカ研究者と交流した。

地域貢献としては、三鷹市の NPO 法人「三鷹ネットワーク大学推進機構」からの要請に応え、「アフリカの人々の日常と私たち—宗教と食をめぐって」と題して、連続 5 回のセミナーを実施した。講師は、武内進一、村橋勲、松波康男（明治学院大学准教授・前現代アフリカ地域研究センター特任研究員）、村津蘭、大石高典（講義順）で担当した。全 5 回の出席者総数は 83 名で、アンケートによれば、参加者の意見は総じて好評であった。

2.6. ウェブサイト、SNS による情報発信

2.6.1. センター公式ウェブサイト

2017 年 7 月の公式ウェブサイトの設置以降、ホームページは着実に閲覧されてきた。ホームページは、昨年度末に導線、コンテンツ、レイアウトを大幅に更新した。今年度は、通算 106,032 のページビュー（閲覧されたページの合計数）であり（2022 年 3 月 7 日現在）、昨年度の同期間と比較して約 330 ビュー増加している。なかでも、トップページ、アフリカ関連情報の短信ページである「今日のアフリカ」、スタッフ紹介ページの閲覧が多かった。今年度は 150 本を超える記事を更新した（内訳は表 1）。

表 1　公式ウェブサイト記事更新数内訳

2021 年度	センターＨＰ （全て記事公開日を基準にカウント）										
公開月	お知らせ・イベント			研究活動				今日の アフリカ	留学生招致		
	お知らせ	ASC セミナー	その他の イベント	研究 成果	研究 プロジェクト	招へい 研究者	センター 刊行物		留学生 紹介	活動記録	協力者
4 月	2	0	1	2	1	0	0	9	1	0	0
5 月	1	0	2	1	0	0	0	7	1	0	0

6 月	0	0	1	0	0	1	0	8	3	0	0
7 月	0	2	0	0	0	0	0	10	5	1	0
8 月	0	0	0	4	0	0	0	6	0	1	0
9 月	0	1	0	1	0	2	0	10	6	0	0
10 月	2	0	0	2	0	1	0	5	0	0	0
11 月	1	1	4	0	0	1	0	8	0	0	0
12 月	0	3	2	0	0	5	0	7	1	1	0
1 月	1	0	2	1	0	3	0	6	0	0	0
2 月	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0
3 月*	0	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0
計	7	7	12	12	1	14	0	80	20	4	0

＊３月の集計データは 2020 年 3 月 7 日までのもの

2.6.2. SNS（フェイスブック、ツイッター）

センターに関する最新情報については Facebook 及び Twitter といった SNS でも発信している。現在の各フォロワー数は Facebook で 921、Twitter で 1279 であり、昨年度末から Facebook で 161、Twitter で 422、フォロワーが増加している（2021 年 3 月 7 日時点）。今年度の投稿記事（ツイート）数などは、表 2 に示すとおりである。

表 2　SNS 更新数内訳

2021 年度	Facebook			Twitter		
公開月	記事投稿数	いいね！	フォロワー	ツイート数	リツイート	いいね！
4 月	17	6	11	12	73	111
5 月	12	2	4	11	58	125
6 月	11	22	23	12	86	114
7 月	19	3	3	20	86	168
8 月	11	2	3	10	32	64
9 月	16	7	8	14	70	136
10 月	10	20	23	10	76	126
11 月	12	27	27	8	61	94
12 月	16	4	6	19	45	116
1 月	13	4	5	14	50	90
2 月	8	12	15	6	24	40
3 月*	5	4	25	4	33	59
合計	150	113	153	140	694	1243

＊３月の集計データは 2020 年 3 月 7 日までのもの。

2.6.3. メーリングリスト

2023 年 3 月 10 日現在、登録者数は 836 名となり、昨年より 130 名以上増えた。また、オンラインによるセミナー開催が増え居住地に関わらず参加することが可能となったため 2020 年末には外国人向けメーリングリストを作成。招へい者や留学生、国際セミナーの参加者を中心に登録者は 110 名におよぶ。

2.7. 来年度に向けた活動

2022 年度の活動に関して既に準備が始まっているものもあり、簡単に触れておく。

2.7.1. SAJU フォーラム

南アフリカ・日本大学フォーラム（SAJU フォーラム）は、2019 年度にプレトリア大学で行われた際には本センターが日本側事務局を務めた経緯がある。2022 年度には、日本側が中心になってオンライン開催される予定だが、本センターは筑波大学とともに準備を行っていくことになっている。

2.7.2. JSAS 年次総会

Japan Society for Afrasian Studies (JSAS)は、在日アフリカ人研究者が中心になって設立された学会である。本センターに対して、2022 年度年次総会について協力依頼があったことを受けて、総会（7 月開催予定）の開催場所を提供することとした。

3. センターの人員構成

センター長	武内進一
センター教員（兼担）	出町一恵、石川博樹、苅谷康太、箕浦信勝、中川裕、中山俊秀、中山裕美、大石高典、坂井真紀子、椎野若菜、品川大輔
特任研究員	村橋勲、村津蘭
特別研究員	アルタンジョラー、Gore, David、林剛平、Kinyua, Laban Kithinji、大竹裕子
事務局	緑川奈津子

４．活動記録

4.1. ASC セミナー一覧

回	開催日	講師	題目	備考
59	7 月 16 日（金）	村橋勲（東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・特任研究員） 司会：椎野若菜（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授） コメンテーター：久保忠行 氏（大妻女子大学比較文化学部・准教授）、村尾るみこ 氏（総合地球環境学研究所・研究員）	合評会：村橋 勲 著『南スーダンの独立･内戦･難民 希望と絶望のあいだ』（昭和堂、2021 年）	NPO 法人 FENICS と東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターが主催。日本アフリカ学会関東支部第 4 回例会を兼ねる。日本文化人類学会次世代支援 WG の協力 参加者 77 人 オンライン開催
60	7 月 20 日（火）	スカーレット･コーネリッセン（ステレンボッシュ大学政治学科・教授、現代アフリカ地域研究センター・客員教授）	The Fallist Movements' Antecedents and Legacies: Political Change and Transitional Justice in Post-Apartheid South Africa	日本アフリカ学会関東支部第 5 回例会を兼ねる 参加者 48 人 オンライン開催
61	9 月 7 日（火） 9 月 10 日（金）	武内進一（東京外国語大学／アジア経済研究所） コジョ･アマノール（ガーナ大学） 網中 昭世（アジア経済研究所） ピーター･ナー（ガーナ大学） ホーマン･チトンゲ（ケープタウン大学） 佐藤 千鶴子（アジア経済研究所） テショメ･イマナ（アディスアベバ大学）	書籍刊行記念セミナー African Land Reform under Economic Liberalisation:States, Chiefs, and Rural Communities（武内進一編、Springer）	日本アフリカ学会関東支部第 8 回例会を兼ねる 参加者 50 人（9 月 7 日） 参加者 35 人（9 月 10 日） オンライン開催
62	11 月 15 日（月）	クウェク・アンピア教授（リーズ大学芸術･人文･文化学部東アジア研究科・准教授／東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・客員教授）	The Dynamics of Economic Events between Japan and Africa from the 1930s to the 1960s	日本アフリカ学会関東支部第 11 回例会を兼ねる 参加者 33 人 オンライン開催
63	12 月 2 日（木）	エスティファノス･アフェウォルキ･ハイレ閣下（駐日エリトリア国大使館特命全権大使）	The Role of the African Diplomatic Corps in the TICAD Process	日本アフリカ学会関東支部第 12 回例会を兼ねる

回	開催日	講師	題目	備考
				参加者 27 人 オンライン開催
64	12 月 10 日（金）	エリア･オロウォ･オニャンゴ博士（現代アフリカ地域研究センター・客員准教授、マケレレ大学・講師）	East African Borders: From Colonial Partition to Contemporary Disputes	日本アフリカ学会関東支部第 13 回例会を兼ねる 参加者 45 人（オンライン 35 名、対面 10 名） ハイブリット（対面・オンライン併用）開催
65	12 月 22 日（水）	エヴァリスト･フォンゾッシ･フェドゥン博士（現代アフリカ地域研究センター・客員准教授、ドゥアラ大学・准教授）、コメント：香坂 玲 博士（名古屋大学大学院 環境学研究科・教授）	Biodiversity-based Value Chains and the Nagoya Protocol on Access and Benefit-sharing (ABS) in Cameroon	日本アフリカ学会関東支部第 14 回例会を兼ねる 参加者 30 人 オンライン開催

4.2. 主催・協力イベント一覧

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
共催	4 月 28 日	第 6 回 BLM セミナー「Black Lives Have Mattered: アメリカ文化と音楽におけるアフリカン・アメリカンと人種」	共催：東京外国語大学多文化共生研究創生 WG
共催	5 月 12 日	第 7 回 BLM セミナー「教育の平等と公正のはざまで揺れる BLM」	共催：東京外国語大学多文化共生研究創生 WG
共催	6 月 16 日	第 8 回 BLM セミナー「BLM を芸術につなぐ」	共催：東京外国語大学多文化共生研究創生 WG
共催	7 月 21 日	第 9 回 BLM セミナー「#MeToo と BLM」	共催：東京外国語大学多文化共生研究創生 WG
主催	11 月 3＆6 日	ASC-TUFS 創設 5 周年記念国際シンポジウム	共催：東京外国語大学 大学の世界展開力強化事業（アフリカ）、西東京三大学連携事業

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
協力	2021 年 10 月 31 日～2022 年 3 月 6 日	オンラインで世界を旅しよう! 2021 地球たんけんたい⑩	主催：マナラボ環境と平和の学びデザイン 京都府大学連携環境学習プログラム実施事業
共催	11 月 29 日～12 月 10 日	アフリカンウィークス 2021	主催：2021 年度アフリカンウィークス実行委員
共催	12 月 17 日	第 13 回 KU-TUFS セミナー「The Political Economy of the TICAD Process: Bureaucratic Interests and the Immobility of the Japanese Private Sector」	共催：京都大学アフリカ地域研究資料センター
共催	1 月 13 日	第 14 回 KU-TUFS セミナー「Agrobiodiversity and the challenge of food security in forest dwelling communitis in Southeastern Cameroon」	共催：京都大学アフリカ地域研究資料センター
共催	1 月 30 日	上智大学アジア文化研究所・アフリカ研究セミナー「混迷する北東アフリカ情勢：エチオピア・スーダン・南スーダン」	主催｜上智大学アジア文化研究所、日本アフリカ学会関東支部
協力	3 月 21 日	Africa-Japan Graduate Students and Early Career Researchers Mentorship	主催者：キニュア・レイバン・キティンジ（東京外国語大学）、クリスチャン・オチア（名古屋大学）、武内進一（東京外国語大学）

4.3. 主要来訪者一覧

1 月 6 日　　Charles Acheampong Agyebeng（2018 年度春学期招致の元交換留学生）

2 月 22 日　　ルワムキョ・アーネスト駐日ルワンダ大使

5. センター教員・研究員の業績

5.1. 研究活動

5.1.1. 著作（単著・共著・編著）

石川博樹（2022）『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い 158』（昭和堂），viii+362pp.

栗本英世・村橋勲・中川理・伊東未来（編）（2022）『かかわりあいの人類学』（大阪大学出版会），308pp.

藤井真一・川口博子・村橋勲（編）（2022）『栗本英世教授退職記念文集 サバンナの彼方』（能登印刷），xii＋514pp.

鈴木玲治・大石高典・増田和也・野間直彦・辻本侑生（編）（2022）『焼畑が地域を豊かにする——火入れからはじめる地域づくり』（実生社），288pp.

さかもとくみこ・すぎやまゆうこ・さかいまきこ（2021）『ニョタのふしぎな音楽～タンザニアの星空のもとで～』（三恵社），2021 年 12 月 1 日，32pp.

増田研・椎野若菜（編）（2021）『現場で育むフィールドワーク教育（FENICS 100 万人のフィールドワーカー4）』（古今書院），2021 年 8 月 12 日，220pp.

Mbabazi Mpyangu, Christine and Wakana Shiino (Eds.) (2021) *Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach (African Potentials: Convivial Perspectives for the Future of Humanity* Vol. 7). Bamenda: Langaa RPCIG. August 26, 2021, 364 pp.

Shinagawa, Daisuke, Seunghun, J. Lee, and Yuko Abe (2022) *Selected Topics of Kirundi Grammar: A Micro-Typological Perspective*. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, March 2022.

Shinagawa, Daisuke, Seunghun, J. Lee, and Yuko Abe (2022) *Working Papers in African Linguistics (WoPAL)* Vol. 1: Selected Outcomes of the ReNeLDA Project. March 2022.

Takeuchi, Shinichi (Ed.) (2021) *African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities*. Singapore: Springer, October 21, 2021, xviii+203 pp.

武内進一・中山智香子（編）（2022）『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ—アメリカからグローバル世界へ』（東京外国語大学出版会）2022 年 3 月 15 日，388pp.

ASC-TUFS Working Papers Volume 2 (2022) Tokyo: African Studies Center - Tokyo University of Foreign Studies. iv+321pp.（Editorial Board: Shinichi Takeuchi, Kazue Demachi, Isao Murahashi, Ran Muratsu, Yumi Nakayama, Takanori Oishi, and Makiko Sakai).

5.1.2. 論文

出町一恵（2022）「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」，佐藤史郎・石坂晋哉（編）『現代アジアをつかむ』（明石書店），第 15 章，pp.207-221.

出町一恵（2022）「経済と開発：市場の中のアフリカ」，遠藤貢・阪本拓人（編）『ようこそアフリカ世界へ』（昭和堂），第 7 章，pp.121-143.

出町一恵（2022）「格差と没落—抑圧者の恐怖心」，武内進一・中山智香子（編） 『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ—アメリカからグローバル世界へ』（東京外国語大学出版会），第 5 章，pp.116-139.

Demachi, Kazue (2022) “The African Sovereign Debt: Financial Dominance over Development”. *ASC-TUFS Working Papers* 2: 129-144.

石川博樹（2022）「16～18 世紀のエチオピア北部におけるテフの消費拡大とインジェラの成立」，『農耕の技術と文化』30: 1-35.

Kimura, Kimihiko and Hirosi Nakagawa (2021) “Coronal Stop Series in the Kalahari Basin Area”. *Studies in Asian and African Geolinguistics* (1).

Kimura, Kimihiko and Hirosi Nakagawa (未定) “Grammatical Relations in the Kalahari Basin Area”. *Studies in Asian and African Geolinguistics*.

Nakayama, Yumi (2022) “Why Informal Cross Border Traders (ICBTs) Act Informally? Analysing the Paradox of

Formalization of ICBTs in Africa". *ASC-TUFS Working Papers* 2: 65-82.
中山裕美・土井翔平（2021）「国際難民制度のテキスト分析－UNHCR における北欧諸国の発言を事例に」,『国際関係研究の方法』（東京大学出版会），pp. 213-236.
中山裕美（2022）「生命科学と国際政治－「生命科学の世紀」の IR 研究の地平－」,『JAIR Newsletter』170: 30-34.
大石高典（2021）「現代日本における獣肉食文化の文化人類学的研究」,『食生活科学・文化及び環境に関する研究助成 研究紀要』34: 55-63.
大石高典（2021）「媒介者としてのハチ――人＝ハチ関係からポリネーションの人類学へ」,『文化人類学』86(1): 76-95.
黒田末寿・島上宗子・増田和也・野間直彦・鈴木玲治・今北哲也・大石高典（2021）「積雪地域の斜面草場を利用した焼畑：雪と女性が支えた焼畑を見なおす」,『生態人類学会ニューズレター』27: 40-45.
大石高典（2021）「人体に棲まうマラリア原虫／ロア糸状虫」，奥野克己・シンジルト（編）『マンガ版マルチスピーシーズ人類学』（以文社），pp. 261-294.
大石高典（2022）「焼畑は『よくわからないけれど面白い』」，鈴木玲治・大石高典・増田和也・野間直彦・辻本侑生（編）『焼畑が地域を豊かにする――火入れからはじめる地域づくり』（実生社），pp. 40-50.
Oishi, Takanori (2022) "People and Dogs in Rainforests: Multispecies Relationships Under the Rising Pressure of Conservation Policy in Southeastern Cameroon". *ASC-TUFS Working Papers* 2: 205-255.
Sakai, Makiko (2022) "Over-indebtedness of Microfinance in Rural Africa: A Sociological Perspective of Tanzania". *ASC-TUFS Working Papers* 2: 145-163.
Shiino, Wakana (2021) "Introduction—Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach". In W. Shiino and C. Mbabazi Mpyangu (eds.), *Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach (African Potentials: Convivial Perspectives for the Future of Humanity* Vol. 7). Bamenda: Langaa RPCIG, pp.1-33.
Shiino, Wakana (2021) "Changes in the Traditional Social System of Polygyny: Kenya's Independence to the Present". In W. Shiino and C. Mbabazi Mpyangu (eds.), *Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach (African Potentials: Convivial Perspectives for the Future of Humanity* Vol. 7). Bamenda: Langaa RPCIG, pp.57-89.
Shinagawa, Daisuke, and Lutz Marten (2021) "Micro-typological Covariation of Negation and Focus Marking Morphology in Bantu languages". 『言語研究』160: 215-248.
Takeuchi, Shinichi (2021) "Introduction: Drastic Rural Changes in the Age of Land Reform". In S. Takeuchi (ed.), *African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities*. Springer: Singapore, pp. 1-19.
Takeuchi, Shinichi (2021) "Land Law Reform and Complex State-Building Process in Rwanda". In S. Takeuchi (ed.), *African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities*. Springer: Singapore, pp. 137-152.
Takeuchi, Shinichi (2022) "Policy Concepts and Normative Rationales in Japan's Foreign Aid: Human Security, TICAD, and Free and Open Indo-Pacific". In H. Kwon, T. Yamagata, E. Kim, and H. Kondoh (eds.), *International Development Cooperation of Japan and South Korea: New Strategies for an Uncertain World*. Singapore: Palgrave Macmillan, pp.3-22.
Takeuchi, Shinichi (2022) "Japan's Peace Policy in Africa: Discussion Towards TICAD VIII". *ASC-TUFS Working Papers* 2: 23-41.
武内進一（2022）「ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ」，武内進一・中山智香子（編）『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ―アメリカからグローバル世界へ』（東京外国語大学出版会）.
武内進一（2022）「植民地主義の見直し―ヨーロッパとアフリカ」武内進一・中山智香子（編）『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ―アメリカからグローバル世界へ』（東京外国語大学出版会）.
村橋勲（2022）「ウガンダの難民居住地における南スーダン人の食習慣――食材と嗜好の変化」,『農耕と技術と文化』30〈特集：アフリカ食文化研究の新展開〉: 133-158.

Murahashi, Isao (2022) “Refugee Mobility and Uncertain Lives: Challenges and Agency of South Sudanese Refugees in Uganda”. *ASC-TUFS Working Papers* 2: 83-102.
村橋勲（2022）「はじめに」，栗本英世・村橋勲・中川理・伊東未来（編）『かかわりあいの人類学』（大阪大学出版会），pp. 1-11.
村橋勲（2022）「〈文化〉の収集における協働と葛藤——南スーダンと難民キャンプにおける現地の人々とのかかわりあい」，栗本英世・村橋勲・中川理・伊東未来（編）『かかわりあいの人類学』（大阪大学出版会），pp. 167-185.
村橋勲（2022）「残された宿題」，藤井真一・川口博子・村橋勲（編）『栗本英世教授退職記念文集 サバンナの彼方』（能登印刷），pp. 312-320.
村橋勲（2022）「クリモトン(Kurimotong)1981-2021 年」（シモン・シモンス著，村橋勲訳），藤井真一・川口博子・村橋勲（編）『栗本英世教授退職記念文集 サバンナの彼方』（能登印刷），pp. 413-423.
村橋勲（2022）「難民キャンプにおける家郷の創造——南スーダン、ロピット難民の儀礼実践と物質文化」，『難民研究ジャーナル』11（印刷中）.
村津蘭（2022）「悪霊との情交—西アフリカ、マミワタの憑依におけるペンテコステ・カリスマ系教会の役割」，『史苑』82(1)（採録決定済）.
Muratsu, Ran (2022) “Affective healing: Pentecostal Charismatic Churches and religious plurality in Benin”. *ASC-TUFS Working Papers* 2:245-259.
村津蘭（2022）「序：世界と共に感じる能力—情動、想像力、記憶の人類学」，『文化人類学』86(4)（採録決定済）.
村津蘭（2022）「悪魔が耳を傾ける—ベナン南部のペンテコステ・カリスマ系教会の憑依における想像と情動」，『文化人類学』86(4)（採録決定済）.
Kinyua, Laban Kithinji (2022) “Experiencing the State in Sub-Saharan Africa: Historicising District Toponymy and Decentralisation as a Landscape for Development in Central Kenya”. Occasional Paper, Institute for Asian, African, and Middle Eastern Studies, Sophia University. (Forthcoming)
Kinyua, Laban Kithinji (2022) “Digital Spaces and Democratization in Rural Kenya: Participation, Mobilization, and Laying Claim to Resources”. *Journal of African Studies*. (Submitted)
大竹裕子（2021）『紛争後ルワンダにおけるコミュニティ回復に関するエスノグラフィ』，『コミュニティ心理学研究』25(1): 47-82.

5.1.3. エッセイ、その他

石川博樹（2021）（書評）「池谷和信編『ビーズでたどるホモ・サピエンス史：美の起源にせまる』」，『アフリカ研究』99: 57-60.
石川博樹（2021）「ローマ・カトリック的地獄・煉獄の受容をめぐる 2 つのイエズス会布教の比較：武田和久氏の報告へのコメント」，『メトロポリタン史学』17: 127-130.
石川博樹（2022）「無文字社会の歴史：サハラ以南アフリカの歴史研究は可能か」，吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い 158』（昭和堂），pp. 28-29.
石川博樹（2022）（新刊紹介）「蔀勇造訳注『ケブラ・ナガスト：聖櫃の将来とエチオピアの栄光（東洋文庫 904）』」，『オリエント』64(2).
苅谷康太（2022）「西アフリカのイスラム：どのように拡散・定着したのか」，吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い 158』（ミネルヴァ書房），pp.168-169.
大石高典（連載）「河童のアフリカ研究」，俳句雑誌『氷室』.
大石高典（2021）「勝手に読んで、勝手に育つ」，『pieria（ピエリア）』13: 38-39.
大石高典（2021）「アフリカ熱帯林における先住民運動の展開と民族間問題——カメルーン熱帯林に暮

らすバカ・ピグミーを事例に」,『現代の理論』53: 158-164.

大石高典（2021）「カメルーンの手洗い文化」,『アフリカ便り』（特定非営利活動法人アフリック・アフリカ）.

大石高典（2021）「アフリカの森の世界が示すオールタナティブな「教育」の可能性（書評：園田浩司著『教示の不在——カメルーン狩猟採集社会における「教えない教育」』明石書店）」,『図書新聞』3519.

大石高典（2022）（書評・紹介）「『親指ピアノ道場！～アフリカの小さな楽器でひまつぶし～』サカキマンゴー=著」，特定非営利活動法人アフリック・アフリカ【おすすめアフリカ本】.

椎野若菜（2022）「シンポジウム『これだけは知っておこう 留学／フィールドワークのリスクマネージメント』開催にあたって」,『Quadrante』24.

椎野若菜（2022）「留学・フィールドワークの推奨、そして安全対策の問題点：大学院以上の場合」,『Quadrante』24.

品川大輔（2022）（書評）「小馬 徹 著『ケニアのストリート言語，シェン語—若者言葉から国民統合の言語へ』」,『アフリカ研究』100.

武内進一（2021）「対中央アフリカ共和国援助—有効な脆弱国支援を求めて」，阪本久美子・岡野内正・山中達也（編著）『日本の国際協力 中東・アフリカ編—貧困と紛争にどう向き合うか』（ミネルヴァ書房），pp. 199-201.

武内進一（2021）（資料紹介）「市川 光雄 著『森の目が世界を問う——アフリカ熱帯雨林の保全と先住民——』」,『アフリカレポート』59: 102.

武内進一（2021）「アフリカへの美術品返還」,『美術の窓』40(9): 195-196.

武内進一（2022）「現代アフリカの紛争—国際社会は有効な関与ができるか」，吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い 158』（ミネルヴァ書房），pp. 308-309.

村橋勲・仲尾周一郎（2021）「留学という旅——日本の南スーダン人」,『季刊民族学』176（2021 年春）〈特集：隣のアフリカ人——グローバル世界を生きる人々〉: 34-41.

Murahashi, Isao (2021) “Traditional Steelmaking in Southwestern Ethiopia: A Metallurgical Analysis”. *The Crucible* (Histoical Metallury Society Newsletter) 106: 12-13.

村津蘭（2021～2022）（連載）「今日もベナンの風が吹く（1）～（6）」,『ふらんす』2021 年 10 月～2022 年 3 月号（白水社），pp. 66-67.

村津蘭（2021）「モンゴルの医療、マルチスピーシーズ・ストーリーテリング、マルチモーダル人類学（ナターシャ・ファイン氏へのインタビューと翻訳）」,『モア・ザン・ヒューマン－マルチスピーシーズ人類学と環境人文学』（以文社），pp. 121-134.

村津蘭（2021）「Slow Culture」,『たねまきアクア 8』（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA），pp. 12-17.

5.1.4. 学会・シンポジウム

石川博樹（2021）「16～18 世紀エチオピア北部におけるテフの重要性の変化について」，日本ナイル・エチオピア学会第 30 回学術大会，2021 年 4 月 18 日（オンライン）.

石川博樹（2021）「エチオピア関連ポルトガル語史料における作物名称 Milho と Grão に関する考察」，日本アフリカ学会第 58 回学術大会，2021 年 5 月 23 日（オンライン）.

石川博樹（2021）「エチオピア北部におけるインジェラの成立に関する歴史学研究」，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所海外学術調査フォーラム，2021 年 6 月 20 日（オンライン）.

石川博樹（2021）「イタリアにおけるエチオピア人種・民族論の展開」，日本オリエント学会第 63 回大会，2021 年 10 月 31 日（オンライン）.

石川博樹（2021）「イエズス会エチオピア布教の概要と近年の研究状況」，科研費学術変革領域研究（B）「中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合：歴史研究の総合的アプローチ」イエズス会班月例研究会，2021 年 11 月 11 日（オンライン）.

苅谷康太（2022）「知識と『暴力』：初期ソコト・カリフ国におけるマフディー思想」，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 AA 研フォーラム，2022 年 3 月 10 日（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）.

Kimura, Kimihiko and Hirosi Nakagawa (2021) "Grammatical Relations in the Kalahari Basin Area". *The second meeting of ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics"*. March 29, 2022 (Online).

中川裕・木村公彦（2021）「カラハリ狩猟採集民のための持続可能な識字活動基盤：スマートフォンと SNS を用いたグイ語正書法の普及と企画」，日本アフリカ学会第 58 回学術大会（ポスター発表），2021 年 5 月 22 日（オンライン）

Kimura, Kimihiko and Hirosi Nakagawa (2021) "Animal vocabulary in the Kalahari Basin Area". *The third meeting of ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics"*. September 5, 2021 (Online).

中川裕（2021）「多数のクリック子音をもつ言語は音韻体系をどう組織化するか：“コイサン”諸語の子音・母音・音素配列」，日本音声学会第 25 回全国大会（特別講演），2021 年 9 月 25～26 日（オンライン）.

中川裕（2021）「World Color Survey とコイサン色彩語」，日本フランス語学会 2021 年度談話会（招待講演），2021 年 11 月 6 日（オンライン）.

中川裕・加藤幹治・木村公彦（2021）「菅原データ：初のコイサン自然会話コーパス（ワークショップ「最後のアナログ言語調査資料：危機に瀕した言語データの発掘と救出」）」，日本言語学会第 163 回大会，2021 年 11 月 20～21 日（オンライン）.

堀内ふみ野・中山俊秀（2021）「ただの点、だけどね：構文構成素としての読点」，日本言語学会第 162 回大会，2021 年 6 月 26 日（オンライン）.

中山俊秀（2021）「用法基盤アプローチが関心を向ける「語」のリアリティ」，東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」2021 年度第 2 回研究会，2021 年 7 月 18 日（オンライン）.

Nakayama, Toshihide and Fumino Horiuchi (2021) "'Structural Incompletion' as a Communicative Strategy: What Motivates Utterances Starting in the Middle?". *16th International Conference of the European Association of Japanese Studies*. August 24, 2021 (Online).

中山俊秀（2021）「『周辺的』文法パターンは文法研究をどのように広げてくれるのか」，日本英語学会第 39 回大会（特別講演），2021 年 11 月 14 日（オンライン）.

中山俊秀（2021）「扱いにくいデータが教えてくれること：逸脱的構文が明らかにする文法システムの文脈依存性」，AA 研フォーラム「アジア・アフリカの現代的諸問題の解決に向けた新たな連携研究体制の構築」，2021 年 12 月 9 日（オンライン）.

Nakayama, Yumi (2021) "Why Informal Cross Border Traders (ICBTs) Act Informally? Analysing the Paradox of Formalization of ICBTs in Africa". *ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium*. November 3, 2021 (Tokyo University of Foreign Studies).

大石高典（2021）「2 種の蟲から学んだこと――マラリア原虫とロアロアに客体化される人体をめぐって」，第 52 回マルチスピーシーズ人類学研究会，2021 年 5 月 15 日（オンライン）.

園田浩司・飯塚宜子・田中文菜・大石高典（2021）「精霊の物語とオンライン旅――カメルーン狩猟採

集社会の環境観を学ぶ」，異文化間教育学会第 42 回大会・日本国際理解教育学会第 30 回研究大会合同大会，2021 年 6 月 13 日（オンライン）.

Oishi, Takanori (2021) “People and Dogs in the Rainforest: Multispecies Relationships under the Rising Pressure of Conservation Policy in South-eastern Cameroon”. *ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium*. November 6, 2021 (Tokyo University of Foreign Studies).

坂井真紀子（2021）「カメルーン西部州における定期市と伝統的首長領」，日本アフリカ学会第 58 回学術大会，2021 年 5 月 22～23 日（オンライン）.

Sakai, Makiko (2021) “Over-indebtedness of Microfinance in Rural Africa: A Sociological Perspective of Tanzania”. *ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium*. November 3, 2021 (Tokyo University of Foreign Studies).

椎野若菜（2021）「日本文化人類学会の男女共同参画の歴史・現状：ジェンダー比をみることから」「子育てとフィールドワークの両立という観点から、子育てフィールドワーカーが直面する困難」，FENICS×文化人類学会×GEAHSS 共催シンポジウム「人類学者の心地よいライフワークバランスを考えるために：文化人類学会の現状を知ることから」，2021 年 5 月 29 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）「イントロダクション：本プロジェクトの概要」，AA 研共同利用・共同研究課題「グローバル時代のアフリカの「若者」のキャリア志向と『現実』との交渉：東部アフリカを中心に」・科研費基盤(C)「東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの同居家族の研究」（研究代表者：椎野若菜）研究会，2021 年 6 月 12 日（オンライン）

椎野若菜（2021）「アフリカの男女学生の性・生理の知識――ケニア・ウガンダでの調査から」，民博共同研究「月経をめぐる国際開発の影響の比較研究――ジェンダーおよび医療化の視点から」，2021 年 8 月 11 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）「趣旨」「留学・フィールドワーク推奨、そして安全対策の問題点」，つなぐ／つながる TUFS ジェンダー・フェミニズム研究 連続シンポジウム 第一回「これだけは知っておこう！留学／フィールドワークのリスクマネージメント」，2021 年 10 月 20 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）「子連れフィールドワークしてみる？」，「ジェンダー、ライフ、ワークを語り合うパラレルサロン」，2021 年 12 月 3 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）「50 年後の世界」、四大学異分野融合研究会「四大学で考える新型コロナ流行から 50 年後の社会と研究~」，2021 年 12 月 22 日（オンライン）.

椎野若菜（2022）「コメント」，「2021 年度第 2 回フィールドサイエンス・コロキアム『コロナ状況下で教える／はじめるフィールドワーク』」，2022 年 3 月 18 日（オンライン）.

品川大輔（2021）「バントゥ諸語の構造的多様性は『どの程度に規則的か』―ミクロ類型論からの接近―」，日本アフリカ学会第 58 回学術大会，2021 年 5 月 21 日（オンライン）.

Shinagawa, Daisuke (2021) “Morphosyntactic Local Variation in Chaga: Group-internal Variation and Atypical Features in Eastern Bantu”. 学振二国間交流事業（ベルギー(FWO)との共同研究）「バントゥ諸語の過去と現在：ミクロ類型論，歴史比較言語学，辞書学の統合による新展開」キックオフミーティング，2021 年 5 月 26 日（オンライン）.

Shinagawa, Daisuke (2021) “We- in Uru (E622D): The Birth of a Focus Sensitive Aspectual Marker in Chaga”. *The 8th International Conference on Bantu Languages*. June 2, 2021 (Online).

Shinagawa, Daisuke, and Lutz Marten (2021) “A Micro-parametric Survey on Typological Covariation Related to Focus Marking Strategies: Based on the Bantu Morphosyntactic Variation Database”. *10th World Congress of African Linguistics.* June 7, 2021 (Online).

Abe, Yuko, Seunghun J. Lee, Cédric Patin, and Daisuke Shinagawa (2021) “Phonetics of the Laryngeal Contrast in Bantu Languages”. AA 研共同利用共同研究課題「通言語的観点からみた音声類型論」2021 年度第 1 回研究会，2021 年 7 月 10 日（オンライン）.

品川大輔（2021）「バントゥ諸語声調研究概観」，AA 研共同利用共同研究課題「日琉語族内的声調類型

論の再構築」2021 年度第 2 回研究会，2021 年 8 月 7 日（オンライン）.

Shinagawa, Daisuke and Junko Komori (2021) “Animal Vocabulary in Niger-Congo”. AA 研共同利用・共同研究課題「アジア・アフリカ地理言語学研究」2021 年度第 1 回研究会，2021 年 9 月 4 日（オンライン）.

品川大輔（2021）「キリマンジャロ・バントゥ語群の内的バリエーション—類型論的に希少な特徴を中心に—」,『外国語と日本語との対照言語学的研究』第 33 回研究会，2021 年 9 月 18 日（オンライン）.

品川大輔（2021）「バントゥ諸語の post-nasal trilling」，リンディフォーラム：ウェビナーシリーズ (17), 2021 年 10 月 19 日（オンライン）.

Furumoto, Makoto, Nico Nassenstein, and Daisuke Shinagawa (2021) “Demonstrative Systems in Different Swahili Varieties: Investigating Cross-varietal Developments”. *Baraza Swahili Studies Conference 2021*. October 29, 2021 (Online).

品川大輔（2021）「バントゥ諸語の鼻音後ふるえ音」，AA 研共同利用共同研究課題「通言語的観点からみた音声類型論」2021 年度第 2 回研究会，2021 年 11 月 6 日（オンライン）.

武内進一（2021）「アフリカ研究からブラック・ライヴズ・マターを考える—地域研究への示唆」，JCAS 年次総会一般公開シンポジウム「地域研究とグローバル・アジェンダ——『濃い研究』のもたらす視座——」基調講演，2021 年 10 月 30 日（オンライン）.

Takeuchi, Shinichi (2021) “Japan’s Peace Policy for Africa: Discussion Towards TICAD VIII”. *ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium*. November 3, 2021 (Tokyo University of Foreign Studies).

武内進一（2021）「今日のアフリカにおける土地紛争の背後にあるもの」，日本平和学会 2021 年度秋季研究大会 部会 7 「資源と紛争」，2021 年 11 月 7 日（オンライン）.

Takeuchi, Shinichi (2021) “Policy Concepts and Normative Rationales in Japan’s Foreign Aid—Human Security, TICAD, and Free and Open Indo-Pacific”. 国際開発学会第 32 回全国大会“International Development Cooperation of Japan and South Korea -New Strategies for an Uncertain World -”. November 21, 2021 (Online).

村橋勲（2021）「合評会　『南スーダンの独立・内戦・難民——希望と絶望のあいだ』」，FENICS サロン／第 59 会 ASC セミナー／日本アフリカ学会関東支部 2021 年度第 4 会例会，2021 年 7 月 16 日（オンライン）.

村橋勲（2021）「第 11 回地域研究コンソーシアム登竜賞受賞記念講演」，2021 年度地域研究コンソーシアム年次集会，2021 年 10 月 30 日（オンライン）.

村橋勲（2021）「エチオピアを知ろう！」，アフリカンウィークス 2021 映画『かぞくの証明』上映＆トークイベント，2021 年 11 月 28 日（オンライン）.

村橋勲（2021）「東アフリカのコーヒー文化——栽培・飲用の歴史とグローバル化の影響」，みたか地球市民講座「アフリカの人々の日常と私たち——宗教と食をめぐって」第 2 回，2021 年 12 月 23 日（三鷹ネットワーク大学）.

村橋勲（2021）「ウガンダと越境する人々——南スーダンとルワンダの事例」，MPJ Youth ウガンダ勉強会，2021 年 12 月 26 日（オンライン）.

村橋勲（2022）「南スーダン——R-ARCSS 後の情勢と北東アフリカ諸国との関係」，上智大学アジア文化研究所アフリカ研究セミナー「混迷する北東アフリカ情勢——エチオピア・スーダン・南スーダン」／アフリカ学会関東支部 2021 年度第 15 回例会，2022 年 1 月 30 日（オンライン）.

Murahashi, Isao (2022) “Refugee Mobility and Uncertain Lives: Challenges and Agency of South Sudanese Refugees in Uganda”. *Mobility Section Talk, Africa Multiple project, University of Bayreuth*. February 3, 2022 (Online).

村津蘭（2022）「アフリカのキリスト教と在来信仰——ベナンの宗教実践」，みたか地球市民講座「アフ

リカの人々の日常と私たち——宗教と食をめぐって」第 4 回，2022 年 1 月 22 日（三鷹ネットワーク大学）.

アルタンジョラー（2021）「モンゴル・シャーマニズムと身心変容技法」，天理大学おやさと研究所研究会，2021 年 5 月 27 日（天理大学／オンライン）.

アルタンジョラー（2021）「コメント」，人体科学会第 35 回大会，2021 年 12 月 4～5 日（東京女子医科大学／オンライン）.

Gore, David (2021) "Silencing the Guns?: An Analysis of the Response by the African Union to Conflict in South Sudan". *ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium*. November 3, 2021 (Online).

Kinyua, Laban Kithinji (2021) "Digital Spaces and Democratization in Rural Kenya: Participation, Mobilization, and Laying Claim to Resources". *Japan Association of African Studies the 58th Annual Meeting*. May 23, 2021 (Online).

Kinyua, Laban Kithinji (2021) "Politics of Scapegoating and Fatigue During COVID-19 Pandemic in Kenya". *Webinar on "Towards Understanding Grassroots Perspectives in Africa under COVID-19"*. August 31, 2021 (Online).

Kinyua, Laban Kithinji (2021) "Towards a Political Ethnography of Digital Media Platforms in Rural Africa: Theoretical Underpinnings". *The 3rd meeting of ILCAA Joint Research Project "Global Youth Dynamics and 'Reality' Negotiation in Eastern Africa"*. November 20, 2022 (Online).

5.1.5. 一般向け講演

大石高典（2021）「アフリカの先住民と IT/ICT：カメルーン熱帯林の狩猟採集民の文化的サバイバルをめぐって」，NPO 現代の理論・社会フォーラム 先住民研究会，2021 年 4 月 10 日（オンライン）.

大石高典・園田浩司・田中文菜・矢野原佑史・飯塚宜子（2021）「トリップ２ アフリカの森の精霊に会いに行こう！」，『オンラインで世界を旅しよう！2021 地球たんけんたい⑩』，2021 年 11 月 21 日（京都府京都市）.

大石高典（2022）「アフリカの『森の民』とカカオ栽培——熱帯雨林の開発と保全のはざまで」，みたか地球市民講座「アフリカの人々の日常と私たち——宗教と食をめぐって」第 5 回，2022 年 2 月 3 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）「趣旨説明」，FENICS×アフリカ学会 Zoom 共催サロン:フィールドワーカーのライフイベント，2021 年 5 月 23 日（オンライン）.

Takeuchi, Shinichi (2021) "Introduction: Drastic Rural Changes in the Age of LandRreform". *The 61st "Book Launch Seminar: African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities (Editor Shinichi Takeuchi)"*. September 7, 2021 (Online).

Takeuchi, Shinichi (2021) "Land Law Reform and Complex State-building Process in Rwanda". *The 61st "Book Launch Seminar: African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities (Editor Shinichi Takeuchi)"*. September 10, 2021 (Online).

武内進一（2021）「コロナ禍のアフリカ：近年のアフリカ政治動向を探る」，アジア経済研究所賛助会員限定セミナー，2021 年 12 月 8 日（オンライン）.

武内進一（2021）「現代アフリカの宗教と食に関する歴史的展開」，みたか地球市民講座「アフリカの人々の日常と私たち——宗教と食をめぐって」第 1 回，2021 年 12 月 10 日（三鷹ネットワーク大学）.

村橋勲（2021）「合評会　『南スーダンの独立・内戦・難民——希望と絶望のあいだ』」，FENICS サロン／第 59 会 ASC セミナー／日本アフリカ学会関東支部 2021 年度第 4 会例会，2021 年 7 月 16 日（オンライン）.

村橋勲（2021）「第 11 回地域研究コンソーシアム登竜賞受賞記念講演」，2021 年度地域研究コンソーシアム年次集会，2021 年 10 月 30 日（オンライン）.

村橋勲（2021）「エチオピアを知ろう！」，アフリカンウィークス 2021 映画『かぞくの証明』上映＆ト

ークイベント，2021 年 11 月 28 日（オンライン）.

村橋勲（2021）「東アフリカのコーヒー文化——栽培・飲用の歴史とグローバル化の影響」，みたか地球市民講座「アフリカの人々の日常と私たち——宗教と食をめぐって」第 2 回，2021 年 12 月 23 日（三鷹ネットワーク大学）.

村橋勲（2021）「ウガンダと越境する人々——南スーダンとルワンダの事例」，MPJ Youth ウガンダ勉強会，2021 年 12 月 26 日（オンライン）.

村橋勲（2022）「南スーダン——R-ARCSS 後の情勢と北東アフリカ諸国との関係」，上智大学アジア文化研究所アフリカ研究セミナー「混迷する北東アフリカ情勢——エチオピア・スーダン・南スーダン」／アフリカ学会関東支部 2021 年度第 15 回例会，2022 年 1 月 30 日（オンライン）.

Murahashi, Isao (2022) “Refugee Mobility and Uncertain Lives: Challenges and Agency of South Sudanese Refugees in Uganda”. *Mobility Section Talk, Africa Multiple project, University of Bayreuth*. February 3, 2022 (Online).

村津蘭（2022）「アフリカのキリスト教と在来信仰——ベナンの宗教実践」，みたか地球市民講座「アフリカの人々の日常と私たち——宗教と食をめぐって」第 4 回，2022 年 1 月 22 日（三鷹ネットワーク大学）.

5.1.6. 企画・運営・事務局等

椎野若菜（2021）FENICS×アフリカ学会 Zoom 共催サロン:フィールドワーカーのライフイベント, 2021 年 5 月 23 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）FENICS サロン×ASC セミナー「合評会：村橋勲著『南スーダンの独立・内戦・難民—希望と絶望のあいだ』（昭和堂、2021 年）」2021 年 7 月 16 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）日本文化人類学会主催、FENICS 協力イベント「フィールドに行けない人類学（者）」シンポジウム，2021 年 7 月 24 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）AA 研共同利用・共同研究課題「グローバル時代のアフリカの「若者」のキャリア志向と「現実」との交渉：東部アフリカを中心に」・科研費基盤(C)「東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの同居家族の研究」研究会，2021 年 7 月 31 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）FENICS 支援イベント「若手・アーリーキャリア研究者セミナー『人類学をベースにキャリアアップしよう：アカデミアの場合』」2021 年 9 月 10 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）FENICS・HiF（フィールドワークとハラスメント）共催イベント「第 1 回 HiF 読書会:大学にはセクシュアル・ハラスメントが必ずある？／見落とさないための指南書を読む」, 2021 年 9 月 30 日（オンライン）

椎野若菜（2021）FENICS 共催イベント「第 3 回 HiF サロン：ハラスメントのもやもやを描く－アーティスト・小室萌佳さんとの対話」，2021 年 10 月 23 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）2021 年度日本文化人類学会「次世代育成セミナー」，2021 年 11 月 21 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）AA 研共同利用・共同研究課題「グローバル時代のアフリカの「若者」のキャリア志向と「現実」との交渉：東部アフリカを中心に」・科研費基盤(C)「東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの同居家族の研究」研究会，2021 年 11 月 20 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）FENICS 共催イベント「第 4 回 HIF サロン：フィールドワークとハラスメント」，2021 年 11 月 21 日（オンライン）.

椎野若菜（2021）FENICS イベント「人間を育むフィールド（ワーク）教育」，2021 年 12 月 5 日（オン

ライン).

椎野若菜 (2021～2022)「写真でやってみよう!消費社会のフィールドワーク (入門編)・(実践編)」, 2021 年 12 月 26 日・2022 年 1 月 22 日（オンライン).

椎野若菜（2022）AA 研共同利用・共同研究課題「グローバル時代のアフリカの「若者」のキャリア志向と「現実」との交渉：東部アフリカを中心に」・科研費基盤(C)「東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの同居家族の研究」研究会，2022 年 2 月 26 日（オンライン).

村橋勲（2021～2022)「みる VESTA」Ⅰ（VESTA122 号），Ⅲ（VESTA124 号），Ⅳ（VESTA125 号）の企画兼撮影。

5.2. 教育活動

5.2.1. 本学内における今年度担当授業

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)/専攻言語（英語II-5）	経済思想を読む	春
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)/専攻言語（英語II-5）	経済思想を読む	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論 2/B	国際金融概論	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 1/A	国際経済学I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 2/B	国際経済学II	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 2/経済学 B	世界各国・地域の最新経済事情＊1	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習 1	国際経済論 （専門演習）I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習 2	国際経済論 （専門演習）II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 A	国際経済論（卒論演習）I	春
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 B	国際経済論（卒業論文）	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文	国際経済論（卒業論文）	通年
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 3	Research Seminar on International Economics	春
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 4	Research Seminar on International Economics	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	Interdisciplinary Seminar I	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	Interdisciplinary Seminar II	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	Interdisciplinary Seminar II	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	Interdisciplinary Seminar II	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Sustainability Research Advanced Practicum III	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Interdisciplinary Seminar III	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	秋
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	Extramural Internship	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	Extramural Internship	秋
出町一恵	総合国際学研究科	学内実践実習	Intramural Internship	春
出町一恵	総合国際学研究科	学内実践実習	Intramural Internship	秋
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)/専攻言語（英語II-5）	経済思想を読む	春
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)/専攻言語（英語II-5）	経済思想を読む	秋

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論 2/B	国際金融概論	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 1/A	国際経済学I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 2/B	国際経済学II	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 2/経済学 B	世界各国・地域の最新経済事情（日本貿易振興機構（JETRO）連携講座）	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習 1	国際経済論 （専門演習）I	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 1 /ｱﾌﾘｶ歴史文化論	ｱﾌﾘｶ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 2/ｱﾌﾘｶ歴史文化論	ｱﾌﾘｶ歴史文化論	秋
苅谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 1	西アフリカ・アラビア語文献講読	春
苅谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 2	西アフリカ・アラビア語文献講読	秋
苅谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 1 /比較社会論	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
苅谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 2/比較社会論	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	世界のことば B/ｱﾌﾘｶの言語 2	マダガスカル語	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語研究入門 3/A	言語の研究入門	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論 3/A	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論 4/B	言語学概論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学 3/言語学特殊研究 A	「語」とは何か？再考	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学 3/A	形態論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学 4/B	統語論入門	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習 5/言語学 A(専門演習)	言語記述のための類型論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習 6/言語学 B(専門演習)	言語記述のための類型論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文演習 A	言語学卒論演習	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文演習 B	言語学卒論演習	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文	言語学卒業論文	通年
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究 1	個別言語の文法記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究 2	個別言語の文法記述研究	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	言語学修論演習	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	言語学修論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学 1 /言語基礎論	言語記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学 2/言語基礎論	言語記述研究	秋
中川裕	言語文化学部	音声学概論 1/A	音韻分析基礎	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
中川裕	言語文化学部	音声学概論 2/B	音韻論入門	秋
中川裕	言語文化学部	音声学演習 1/音声学A(専門演習)	音声資料分析実習	春
中川裕	言語文化学部	音声学演習 2/音声学B(専門演習)	音韻資料分析実習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習 A	音声学・音韻論卒論演習	春
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習 B	音声学・音韻論卒論演習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業論文	音声学・音韻論卒論演習	通年
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究 1	大学院生のための音声学再入門	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究 2	大学院生のための音韻論再入門	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学 1 /言語基礎論	音声学・音韻論セミナー1	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学 2/言語基礎論	音声学・音韻論セミナー2	秋
中川裕	言語文化学部	音声学概論 1/A	音韻分析基礎	春
中山俊秀	世界教養プログラム	地球社会と共生 2B/多文化社会 1	Language revitalization and community engagement	冬集中
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 1 /言語基礎論	言語使用を基盤として文法を考える：理論と方法	春
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 2/言語基礎論	言語使用における文法の研究：文法の多重性	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治概論 2/A	国際政治理論	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論 1/A	国際人口移動と国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論 2/B	国際関係の中の地域主義	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治論演習 1/国際関係論 A(専門演習)	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論演習 2/国際関係論 B(専門演習)	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業論文演習 A	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	卒業論文演習 B	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業論文	国際協調	通年
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究 1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究 2	国際協調	秋
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論 1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論 2	国際協調	秋
大石高典	世界教養プログラム	地域言語 A/専攻言語(英語II-1)	アフリカ研究のための英語 1	春
大石高典	世界教養プログラム	地域言語 A/専攻言語(英語II-6)	アフリカ地域研究のための英語 2	秋
大石高典	世界教養プログラム	地域基礎 2A(ｱﾌﾘｶ 1)/ ｱﾌﾘｶ地域基礎 1	アフリカ地域研究入門I	春
大石高典	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 1/A	民族誌から学ぶアフリカの生活世界 1	春
大石高典	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 2/B	民族誌から学ぶアフリカの生活世界 2	秋
大石高典	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究演習 3/ｱﾌﾘｶ地域研究 A(専門演習)	フィールド人類学・地域研究	春
大石高典	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究演習 4/ｱﾌﾘｶ地域研究 B(専門演習)	フィールド人類学・地域研究II	秋
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 A	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 1	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 B	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 2	秋
大石高典	国際社会学部	卒業論文	プロセスとしての卒業論文	通年
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	生態人類学の理論と方法I	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	生態人類学の理論と方法II	秋
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1	生態人類学講究 1	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 2	生態人類学講究 2	秋
大石高典・坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 A/専攻言語(英語I-9)	African studies through English II*2	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 B(ｱﾌﾘｶ関連語7)/教養外国語(ﾌﾗﾝｽ語B3)	フランス語で見るアフリカ II	春
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 B(ｱﾌﾘｶ関連語8)/教養外国語(ﾌﾗﾝｽ語B4)	フランス語で見るアフリカ II	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域基礎 2A(ｱﾌﾘｶ 2)/ ｱﾌﾘｶ地域基礎 2	アフリカ地域研究入門 2	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域基礎 2B(ｱﾌﾘｶ 1)/ｱﾌﾘｶ地域基礎 3	アフリカの歴史（3）	春
坂井真紀子	国際社会学部	地域社会研究入門 2/地域社会研究入門IA	地域研究入門	春
坂井真紀子	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 1/A	アフリカ農村社会学	春
坂井真紀子	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 2/B	アフリカと開発	秋
坂井真紀子	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究演習 1/ｱﾌﾘｶ地域研究 A(専門演習)	アフリカ地域ゼミ	春
坂井真紀子	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究演習 2/ｱﾌﾘｶ地域研究 B(専門演習)	アフリカ地域ゼミ	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 A	卒業論文演習 I	春
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 B	卒業論文演習 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	仏語圏アフリカ地域研究 I	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	仏語圏アフリカ地域研究 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	アフリカ地域研究ゼミ	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	アフリカ地域研究ゼミ(2)	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1/ｱﾌﾘｶ政治経済論	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 2/ｱﾌﾘｶ政治経済論	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	秋
椎野若菜	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 1/B	アフリカ人類学：ジェンダー・セクシュアリティ、家族・親族、若者に注目して	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学 1 /ｱﾌﾘｶ言語	African Anthropology(1) : Focusing on Women's condition in East Africa	秋

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
		文化論		
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学 2/ｱﾌﾘｶ言語文化論	African Anthropology (2): Focusing on Women and Youth in Africa	秋
品川大輔	世界教養プログラム	地域言語 C(ｱﾌﾘｶ諸語 1)/諸地域言語（ｽﾜﾋﾘ語 1）	スワヒリ語（初級）	春
品川大輔	世界教養プログラム	地域言語 C(ｱﾌﾘｶ諸語 2)諸地域言語（ｽﾜﾋﾘ語 2）	スワヒリ語（初級）	秋
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士研究：記述言語学	春
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士研究：記述言語学	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 1	バントゥ諸語系統内類型論の射程	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 2	バントゥ諸語系統内類型論の射程	秋
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習 1/国際協力論 A(専門演習)	国際社会の思想と行動 A	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習 2/国際協力論 B(専門演習)	国際社会の思想と行動 B	秋
武内進一	国際社会学部	国際協力論 2/B	Conflict and peacebuilding in Africa	冬
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	Contemporary African politics	春
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	Development in International Relations	秋
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文指導	春
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文指導	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	Interdisciplinary Seminar I	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	Interdisciplinary Seminar I	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	Interdisciplinary Seminar II	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	Interdisciplinary Seminar II	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Interdisciplinary Seminar III	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Interdisciplinary Seminar III	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	秋
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	Extramural Internship	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	Extramural Internship	秋
武内進一	総合国際学研究科	学内実践実習	Intramural Internship	春
武内進一	総合国際学研究科	学内実践実習	Intramural Internship	秋
村津蘭・村橋勲	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 2/B	アフリカの宗教とエスニシティ	秋
Ampiah, Kweku	国際社会学部	国際協力論 2/B	The Discourse of Japan's Relations with Africa	秋
Ampiah, Kweku	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	The Modernization of Japan and its impact on Japan’s International Relations	秋
Cornelissen, Scarlett	国際社会学部	国際協力論 1/A	Japan and its international cooperation with Africa	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
Cornelissen, Scarlett	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	Asia-Africa Relations	春
Fongnzossie, Evariste	国際社会学部	ｱﾌﾘｶ地域研究 2/B	Forest, Human Health and Development in Africa	秋
Fongnzossie, Evariste	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	State of the art and future perspectives of ethnobotanical science in Cameroon	秋
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-2)/専攻言語（英語II-2）	Contemporary Issues in African Society and Politics	春
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-7)/専攻言語（英語II-7）	African Society, Development, and Politics	秋

＊１…JETRO 海外調査部が担当する日本貿易振興機構<JETRO>連携講座

＊２…南部アフリカ開発共同体(SADC)12 か国の在京大使によるリレー講義

5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動

教員名	機関名	学部等	科目名	開講時期
石川博樹	青山学院大学	文学部史学科	東洋史特講	春・秋
石川博樹	慶應義塾大学	商学部	歴史 II	秋
石川博樹	放送大学	移動と交流から見るアフリカ史 2	移動と交流から見るアフリカ史 2	第 1 学期
苅谷康太	東京大学	教養学部前期課程	アラビア語初級	S セメスター･A セメスター
中川裕	東京言語研究所	春期講座	音声学	2021.4.17
中川裕	東京言語研究所	理論言語学講座	調音音声学	前期
中山俊秀	明治大学	文学部	言語学	春・秋
中山俊秀	広島大学	教育学部	言語の比較と対照研究	夏集中
大石高典	亜細亜大学	国際関係学部	アフリカ開発論	春
椎野若菜	上智大学	総合グローバル学部	特講（アフリカの家族と親族）	秋
品川大輔	明治学院大学	言語文化研究所	スワヒリ語初級	春・秋
品川大輔	明治学院大学	言語文化研究所	スワヒリ語中級	春・秋
武内進一	アジア経済研究所	IDEAS 研修プログラム	ゼミナール	通年
武内進一	学習院女子大学	国際文化交流学部	ルワンダの虐殺から考える	2021 年 11 月 27 日
村橋勲	大阪大学	全学教育推進機構	共生学の話題（国際協力とボランティア）	春（リレー）
村橋勲	立教大学	文学部	超域文化学講義 24	秋
村津蘭	京都市立芸術大学	美術学部	映像論 2	春集中
村津蘭	立教大学	文学部	超域文化学講義 20	秋

5.2.3. 修士・博士論文指導

a. 修士論文（東京外国語大学）

指導教員	論文タイトル	論文執筆者
坂井真紀子	ナイジェリアにおける電子ゴミ「再商品化」の考察～コンピューター・ビレッジの事例を中心に	豊坂竹寿
椎野若菜	Coping with Disabling Chronic Illnesses: A Case of Caregivers of Children with Nodding Syndrome in Pader District-Northern Uganda	Orech Geogrey
椎野若菜	Social Media and Mobilization of Youth Against Unemployment in Masaka District – Uganda	Nakimuli Sylivia
椎野若菜	Informal Cross Border Trade and Child Labour at the Uganda-Kenya Border of Malaba	Nakagenda Novia
椎野若菜	Lifestyle and Health: Understanding the Prevalence of Hypertension Among the Elderly in Mulago National Referral Hospital, Kampala District	Kemigisa Divine Mercey
品川大輔	Politeness and Honorific Expressions in Bemba (Bantu M40): A Structural Description and Sociolinguistic Analysis	Subila Chilupula

b. 博士論文

指導教員	主／副	論文タイトル	執筆者	提出大学
中山俊秀	副	現代日本語の語形成における「文の包摂」の研究	泉大輔	東京外国語大学
武内進一	副	Empirical Studies of Current Situations and Challenges of Use of Waste Cooking Oil and Its Sustainable Reuse Strategy in China	Chuangbin Chen	東京農工大学
武内進一	副	Contestations and conflicts over land access between smallholder settler farmers and nomadic Fulani herdsmen in the Kwahu Afram Plains South, Ghana	Bernard Okoampah Out	University of Cape Town
武内進一	副	地方自治制度におけるパラマウント・チーフと若者の連携による地方開発活動の可能性に関する実証的研究－シエラレオネ地方開発プロジェクトの長期モニタリングを中心に－	平林淳利	東京外国語大学
武内進一	副	Property Rights and State-Society Relations in Conflict-Affected Settings: A Case Study of Land Conflicts in Adiquala Sub-Region, Eritrea”	Solomon Haile Gebrezgabhe	政策研究大学院大学

5.3.対外活動、社会貢献

5.3.1. 外部機関からの委託業務

教員・研究員名	機関名	役職名	期間	内容／備考
石川博樹	日本ナイル・エチオピア学会	評議員	2010.4～	

教員・研究員名	機関名	役職名	期間	内容／備考
石川博樹	日本ナイル・エチオピア学会	運営幹事	2007.4～	
石川博樹	日本アフリカ学会	関東支部運営幹事	2010.4～	
中山俊秀	国立民族学博物館	共同研究員	2021.4.1～2022.3.31	言語に関する特別展示の企画協力
中山裕美	文部科学省	学術調査官	2021.8.1～2023.7.31	科学研究費事業に関する諸業務
大石高典	日本アフリカ学会	評議員	2021.4.1～2022.3.31	学会運営に関する諸業務
大石高典	日本アフリカ学会	関東支部運営幹事	2021.4.1～2022.3.31	学会の地域支部運営に関する諸業務
大石高典	日本熱帯生態学会	庶務幹事	2021.4.1～2022.3.31	日本アフリカ学会との連携業務
大石高典	生き物文化誌学会	評議員	2021.4.1～2022.3.31	学会運営に関する諸業務
大石高典	帝京科学大学附属フィールドミュージアム	外部評価委員	2021.4.1～2022.3.31	付属施設の外部評価
坂井真紀子	地域農林経済学会	編集委員	2021.4.1~2022.10.31	個別報告論文の審査
椎野若菜	日本文化人類学会	理事、研究育成委員会委員長（匿名）次世代支援ワーキンググループ	2020.4.1～2022.3.31	日本文化人類学会における若手育成、支援等の業務
椎野若菜	日本文化人類学会	男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会委員長	2020.4.1～2022.3.31	日本文化人類学会における男女共同参画・ダイバーシティ推進に関する業務
椎野若菜	比較家族史学会	理事、編集委員	2011～	『比較家族史』の編集
椎野若菜	ナイル＝エチオピア学会	評議員	2010～	
椎野若菜	民族学博物館	共同研究員	2020.10～	研究課題：月経をめぐる国際開発の影響の比較研究――ジェンダー及び医療化の視点から（代表者：新本万里子）
椎野若菜	マケレレ大学	外部審査委員	2020.7～	修士論文、博士論文の審査
椎野若菜	人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences（GEAHSS）	幹事、会計監事	2021.10.1～2022.9.30	人文系における男女共同参画推進に関する業務

教員・研究員名	機関名	役職名	期間	内容／備考
品川大輔	日本言語学会	大会運営委員	2020.1~2022.11	日本言語学会学術大会の運営
品川大輔	日本アフリカ学会	編集委員	2020.4.1～2022.3.31	学会誌『アフリカ研究』の編集
武内進一	国立民族学博物館	共同研究員	2018.10.1～2022.3.31	研究課題「統治のフロンティア空間をめぐる人類学——国家・資本・住民の関係を考察する」（代表者：佐川徹）の共同研究
村橋勲	日本ナイル・エチオピア学会	総務幹事及び評議員	2020.4.19～2022.3.31	学会庶務
村橋勲	公益財団法人 味の素食の文化センター	企画委員	2021.6.1～2023.3.31	映像企画シリーズ「みる VESTA」の企画・撮影
村橋勲	京都大学アフリカ地域研究資料センター	特任研究員（特任講師）	2020.4.1～2022.3.31	研究課題「北部ウガンダ-南スーダン国境地帯の社会経済的動態に関する研究——パラベク難民居住地とその周辺における経済」（代表：村橋勲）
村橋勲	国立民族学博物館	共同研究員	2020.4.1～2023.3.31	研究課題「モビリティと物質性の人類学」（代表：古川不可知）の共同研究
村橋勲	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	共同研究員	2021.4.1～2024.3.31	研究課題「グローバル時代のアフリカの『若者』のキャリア志向と『現実』との交渉：東部アフリカを中心に」（代表：椎野若菜）の共同研究
村橋勲	バイロイト大学	International fellow	2022.1.12～2022.3.13	Africa Multiple Project, Mobility section（アフリカ・マルティプルプロジェクト、モビリティ部門）への参加
村津蘭	国立民族学博物館	共同研究員	2021.4.1~2022.3.31	研究課題「拡張された場における映像実験プロジェクト」（代表：藤田瑞穂）の共同研究

5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応

対応者名	媒体ジャンル	媒体名・番組名等	対応内容	備考
中山俊秀	テレビ	NHK「チコちゃんに叱られる」	「国によって言葉が違うのはなぜ」に関する取材・企画協力・助言・出演	2022 年 2 月 5 日放送
大石高典	ラジオ	ラジオフチューズ 87.4MHz	「ラジオでオープンキャンパス!：アフリカ地	2021 年 7 月 31 日放送

対応者名	媒体ジャンル	媒体名・番組名等	対応内容	備考
			域専攻 × Femme Café Part 2」への企画協力・助言・出演	
椎野若菜	テレビ	NHK みんなでプラス「日本人留学生 駐在員から性暴力 被害者は他にも…」	本学の学生の留学状況、学生が性暴力をうける程度などに関する情報提供	
武内進一	テレビ	テレビ朝日「大下容子ワイド!スクランブル」	「チャド共和国デビィ大統領死亡」の報道に関する情報提供	2021 年 4 月 22 日
武内進一	テレビ	テレビ朝日「大下容子ワイド!スクランブル」	「ルワンダ・ルセサバギナ氏に禁固 25 年」の報道に関する情報提供	2021 年 9 月 23 日

5.4. 外部資金の獲得

5.4.1. 代表者

代表者名	資金名	資金提供元	期間
出町一恵	科学研究費 若手研究「天然資源依存経済におけるマクロ経済と産業の推移に関する分析」（18K18248）	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2022.3.31（延長）
石川博樹	科学研究費 基盤研究（B）「第 2 次イタリア・エチオピア戦争をめぐる人種・民族問題の研究」（21H00556）	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1.～2025.3.31
苅谷康太	科学研究費 基盤研究（C）「初期ソコト・カリフ国における知と暴力：ジハードと奴隷制を支える思想の研究」（19K01030）	文部科学省・日本学術振興会	2019.4.1～2023.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究(A)「言語音の多様性の外延の理解拡大：3 基軸データによるカラハリ言語帯の音韻類型論」（20H00011）	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1～2025.3.31
中川裕	科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「カラハリ・コエにおける言語と音楽の相互関係：クリックとポリリズム」（18KK0006）	文部科学省・日本学術振興会	2018.10.9～2023.3.31
中山俊秀	科学研究費 基盤研究(B)「言語喪失の動態の研究：沖永良部語若年層話者における言語消滅メカニズムの解明」（20H01257）	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2024.03.31
中山俊秀	科学研究費 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）「タイ少数民族における持続可	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2023.3.31

代表者名	資金名	資金提供元	期間
	能なコミュニティ協働型言語・文化ナレッジベースの構築」(20KK0007)		
中山裕美	科学研究費 基盤研究（C)「生命科学技術による国際秩序変容の分析：生体情報を用いた移民管理の普及を事例として」(21K01367)	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1～2025.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究(C) 「カメルーンにおける定期市ネットワークの社会学的研究」（18H00776）	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2022.3.31（延長）
椎野若菜	科学研究費 基盤研究（C)「東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの『同居家族』の研究」(17K02002)	文部科学省・日本学術振興会	2017.4.1～2023.3.31
品川大輔	科学研究費 基盤研究（C)「バントゥ諸語に見られる類型間連動関係の研究」(19K00568)	文部科学省・日本学術振興会	2019.4.1~2022.3.31
品川大輔	研究拠点形成事業：B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「アフリカにおける言語多様性とダイナミズムに迫るアフリカ諸語研究ネットワークの構築」	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1~2022.3.31
品川大輔	二国間交流事業共同研究（ベルギー（フランダース）との共同研究)「バントゥ諸語の過去と現在：ミクロ類型論，歴史比較言語学，辞書学の統合による新展開」	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1~2022.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究（A)「アフリカ国家論の再構築—農村からの視点」(21H04390)	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.5～2026.3.31
武内進一	科学研究費 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B))「アフリカにおける農村資源管理と国家—ガーナとルワンダの比較研究」(19KK0031)	文部科学省・日本学術振興会	2019.10.7～2023.3.31
村橋勲	科学研究費 研究活動スタート支援「南スーダン難民による『家』の創造に関する人類学的研究」(20K22039)	文部科学省・日本学術振興会	2020.10.1～2022.3.31（繰越申請中）
村橋勲	Canon Foundation-Kyoto University Japan-Africa Exchange Program. “The Socio-economic Dynamics in Northern Uganda-South Sudan Borderland: The Borderland Economy in and around Palabek Refugee Settlement”	Canon Foundation In Europe	2020.4.1～継続中（終了時期は未定）
村津蘭	科学研究費 研究活動スタート支援「感覚による信念の生成ーベナンにおける精霊マミワタを事例として」(20K22040)	文部科学省・日本学術振興会	2020.9.11～2022.3.31

5.4.2. 分担金

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
石川博樹	科学研究費 基盤研究（B)「アフリカ食文化研究の新展開：食料主権論のために」(18H03441)	文部科学省・日本学術振興会	藤本武（富山大学）	2018.4.1～2022.3.31

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
苅谷康太	科学研究費 基盤研究（B)「「北部アフリカ」におけるイスラーム的知識の生成・共有と社会変革の論理」（21H03691）	文部科学省・日本学術振興会	齋藤剛（神戸大学）	2021.4.1～2025.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究(B)「研究職を離れた言語研究者が保持する言語データの適正再資源化のための基盤確立研究」（18H00661）	文部科学省・日本学術振興会	加藤重広（北海道大学）	2018.4.1～2022.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究(B)「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」（19H01264）	文部科学省・日本学術振興会	松本曜（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所）	2019.4.1～2023.3.31
中山俊秀	科学研究費 基盤研究(B)「日常の相互行為における定型性：話し言葉を基盤とした言語構造モデルの構築」（17KT0061）	文部科学省・日本学術振興会	鈴木亮子（慶應大学）	2017.4.1～2023.3.31
中山俊秀	科学研究費 新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」（16H06281）	文部科学省・日本学術振興会	吉田憲司（国立民族学博物館）	2016.4.1～2022.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤研究（A）「国際制度の衰微と再生の政治経済分析」（18H03623）	文部科学省・日本学術振興会	鈴木基史（京都大学）	2018.4.1～2022.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤研究（B）「国際移民をめぐる地域協力枠組の比較研究：アジア・アフリカ・中東・中南米の事例分析」（21H00686）	文部科学省・日本学術振興会	明石純一（筑波大学）	2021.4.1～2025.3.31
大石高典	科学研究費基盤研究（B）「フィールドワークとフィールド実験によるホモルーデンス論の展開」（20H01409）	文部科学省・日本学術振興会	島田将喜（帝京科学大学）	2020.4.1～2025.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究（B）「焼畑による地域資源の活用と創出：日本各地の焼畑復活から描く食・森・地域の再構築」（21H03697）	文部科学省・日本学術振興会	鈴木玲治（京都先端科学大学）	2021.4.1～2026.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究（C）「フィールドの共創的な再現：差異と類似をめぐる教育実践から構築する公共的な人類学」（21K01057）	文部科学省・日本学術振興会	飯塚宜子（京都大学）	2021.4.1～2024.3.31
大石高典	科学研究費 新学術領域研究『トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築：多文化をつなぐ顔と身体表現（顔・身体学）』・計画研究 A01-P02「顔と身体表現の多文化比較フィールド実験研究」（17H06342）	文部科学省・日本学術振興会	高橋康介（中京大学）	2017.7.1.～2022.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究（B）「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と『在来の技術革新史』への視角」（18H00776）	文部科学省・日本学術振興会	杉山祐子（弘前大学）	2020.4.1~2022.3.31（延長）

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
椎野若菜	科学研究費 基盤研究（S）「『アフリカ潜在力』と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究」（16H06318）	文部科学省・日本学術振興会	松田素二（京都大学）	2016.4.1~2022.3.31
椎野若菜	科学研究費挑戦的研究(萌芽)「ケニアのスラムにおける映像民族誌及びデジタルアーカイブのメディアアート的拡張」（	文部科学省・日本学術振興会	野口靖（東京工芸大学）	2019.6.28～2022.3.31
品川大輔	科学研究費 基盤研究（C）「A crosslinguistic study of prosody of particles: Japanese and Bantu languages」（20K00578）	文部科学省・日本学術振興会	李勝勲（国際基督教大学）	2020.4.1~2023.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(A)「持続的な平和と開発のためのガバナンス：ネットワーク科学とデータ科学を用いた研究」（18H03621）	文部科学省・日本学術振興会	阪本拓人（東京大学）	2018.4.1～2022.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(A)「民主主義体制における少数派排除のグローバル化—アジア・アフリカの比較研究」（18H03624）	文部科学省・日本学術振興会	中溝和弥（京都大学）	2018.4.1～2022.3.31
武内進一	科学研究費 学術変革領域研究(A)「紛争影響地域における信頼・平和構築」（20H05829）	文部科学省・日本学術振興会	石井正子（立教大学）	2020.11.19～2025.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(B)「社会運動における生存権・生存思想の影響とその射程に関する基礎的研究」（21H03702）	文部科学省・日本学術振興会	友常勉（東京外国語大学）	2021.4.1～2024.3.31
村津蘭	科学研究費基盤研究（B）「仮想空間における宗教的遠隔治療に関する情動・感覚の文化人類学的研究」（21H00650）	文部科学省・日本学術振興会	De Antoni Andrea（京都大学）	2021.4.1～2025.3.31
Kinyua, Laban Kithinji	日立感染症関連研究支援基金 領域開拓型研究「Exploration of Practical Wisdom and Resilience Overcoming Downside Risk - Collecting grassroots voices in Africa under COVID-19」	日立財団	華井和代（東京大学）	2021.12～2024.11